

REDD 研究開発センター平成 25 年度第 1 回公開セミナー

「途上国の森林保全に向けた民間企業の役割と課題」

<主催者挨拶>

本日は皆様お忙しい中、公開セミナー「途上国の森林保全に向けた民間企業の役割と課題」にご参加下さりまして、誠にありがとうございます。主催者 森林総合研究所を代表いたしまして、ご挨拶いたします。

今、世界の森林は途上国を中心に減少し、また、劣化しつつあります。国連食糧農業機関（FAO）の統計によりますと、世界の森林減少の速度は1990年代と比べれば減速しつつあるものの、依然、毎年1300万ヘクタールの森林が消失していると言われています。このような森林の減少・劣化は、地球温暖化の進行、生物多様性の低下、水資源の供給や災害の防止機能の低下、森林の恵みに頼って生活する地域住民の生計手段の喪失など、地球規模、地域規模の両面で深刻な問題を引き起こしています。

このような中、昨年6月にブラジル、リオで開催されましたリオプラス20では、1992年に開催された地球サミットから20年を経て、改めて我々の望む世界について議論が交わされました。そこでは、エネルギーや資源の有限性が明らかとなる中、環境保全と経済成長の両立を目指す「グリーン経済」への移行が喫緊の課題となっていることが確認されました。「グリーン経済」の実現に向けて注目を集めた一つの重要な考え方が、先進国で消費される様々な消費材の多くがその生産過程を通じて途上国の森林等の開発と関連していることに目を向け、資源の持続的かつ適切な利用のために製品の生産の源流に遡って生産過程を見直そうといういわゆる「サプライチェーン」の改革でした。

翻って、我が国国内では、京都議定書の削減目標達成に向けた森林吸収源対策をきっかけとして、近年、森林整備に対する国民の皆様の関心が高まり、また、木材関係事業者の皆様のご尽力により、間伐材の積極的な利用を通じた森林整備への循環の輪が少しずつ形成されつつあります。いま、日本国内の森林はこれまでの歴史を通じて希に見るほど資源の充実した状態にあるといっても過言ではありません。

しかし、世界の森林に目を向けてみれば、現在も、毎年、九州と四国の合計面積に匹敵する520万ヘクタールもの森林が純減しているのが実態です。その原因の多くが、途上国における外貨獲得のための木材の過剰伐採や、農地の拡大であると言われています。

我が国では多くの木材や、食品、工業製品の原材料について、海外からの輸入に依存しています。その中には、様々な形で、途上国の森林に由来するものも含まれています。国内の森林整備と同時に、このような途上国の森林に目を向けていくことは、途上国の利益を

守るだけではなく、我々の日々の暮らしや経済活動を持続的に営んでいくためにも真剣に考えていかなければならない重要な課題であるといえるでしょう。

さて、私ども森林総合研究所では、平成22年に REDD 研究開発センターを設立し、国連気候変動枠組条約の下で、途上国の森林保全を通じた温暖化緩和策、いわゆる「REDD プラス」の制度確立に向けて、森林炭素の観測技術の開発や政策の提案、公開セミナー等を通じた普及啓発活動などを行ってきました。今回のセミナーはその普及啓発活動の一環として開催するものです。

これまで3年間にわたる活動を通じて、私どもは、途上国の森林減少・劣化の抑止を本当の意味で実現するためには、森林保全活動を直接的に支援するだけではなく、その一方で、日本の消費者を巻き込んでいく必要があること、そしてそのためには森林と消費者とを結ぶ民間企業が重要な役割を果たすことについて、強く認識するに至りました。ここで重要な課題は、森林保全活動を、小さな動きから大きな動きに変えていくために、企業活動そのものの中に森林保全活動を位置づけたビジネスモデルを形成していくことです。しかしながら、科学からのアプローチを軸とする私ども森林総合研究所は、正直申しましてそういったノウハウは弱い面がございます。

そこで今回は私どもからの情報発信というよりも、本日の講師の皆様のご発表から我々も学び、皆さんとともに考えていきたい、という趣旨でセミナーを企画いたしました。本日は、既に途上国の森林保全活動に関わっていらっしゃる企業の皆様や、木材関係業界の皆様、大学・研究機関、報道関係など、様々な業種の皆様にお越しいただいています。後半の時間帯は皆様とパネルディスカッションを予定しておりますので、是非積極的にご参加いただき、途上国の森林保全に向けた新たなアイデアについて幅広い視点からご議論下さいますよう、お願いいたします。

本日のセミナーが、途上国の森林保全活動を組み込んだビジネスモデルを形成していくための一助となりますことを心から期待しております。

簡単ですが、私からのご挨拶とさせていただきます。